

# 夕刊 常新報

発行日 日曜・休日  
 定価 一月五円 三月十円 半年二十円 一年四十円  
 郵費別  
 印刷所 常新報社  
 発行所 常新報社

金物は  
 又商店  
 平町五丁目  
 電話九番九番

## 町民の關心を疑ふ

### 平小鐵道促進に關係民協力せよ

港灣は海陸運輸の連絡至便には完成期を繰上げ既定豫  
 用能率を増進するものであり居るに不拘、平小鐵道は  
 如何なる良港と雖も陸上昭和九年度より起工するこ  
 の連絡を欠くるに於ては港きく、果して昭和九年度よ  
 り起工するは明かであ  
 情より察する時は疑問であ  
 小名濱商港修築は起工して  
 より四ヶ年を経過し本年度  
 密接なる關係を有し商港の六月十七日午前十時小名濱商港試験場にて石城郡の十三日平町役場會議室町會議員として一方の大

## 郡水産會協議會

### 縣水産試驗に於て

### 石城郡町村長會

### の會社

### の印象

### 小名濱町會

## 常磐春秋

(9)

本願の人である、  
 注がれてる。  
 面會して見ると馬目太吉氏  
 の威を興へる、小湊氏は常  
 になりて國庫支辨如何ある  
 銀行は比較的無難の方だ今  
 此の社界と言ふものがどん  
 として又町としても預金者  
 と四倉銀行更生復活を『モ  
 濟眼と政治上の識見を供へ  
 小湊平治郎氏を評する  
 君が何時か愛色を顔に表は  
 中々よい利息はりになる。  
 かさね所にて現内閣の重点  
 があつたか、君は先代の養  
 八十五株あるが最初二十株  
 然して木村前代議士の四倉  
 年にやられた中間然し所を  
 遺すと云ふことがざれば  
 助精神に欠如したる結果の  
 む、こゝに債權支拂に關し  
 言ふ所に幾分の共鳴あらむ  
 郎氏と呼び直其のもので  
 られたのと、配當で買足し  
 せられてる政治的にも一變  
 が僅かに一奮發して犠牲奉  
 られる。  
 金融なども中々手廣くやつ  
 居られる。  
 五千圓位に評價せられる時  
 人四倉町會議員として町治  
 吉田町取は梅子のにぎりめ  
 である、概して一家の事業  
 重ねて言ふ三四年此方銀行  
 營業に余程進んで其の一定  
 其存立を助長すること、せ  
 は)本紙深く見る所あり他  
 三郎氏を除いては小湊氏だ  
 電燈の日本の主都に電力以  
 て四倉銀行の樹立はしにれ  
 も立派のものに佐藤三三  
 人願として其の共榮のた  
 らるる形勢あるに付既に  
 港内形に金融機關の完備に  
 東京住所報せられたし一度  
 は自分の考案は人手に托す  
 が十六圓とは何事かと論じ  
 らむ、云ふを止めよ銀行業  
 しても本文の主役小湊氏に  
 て四倉銀行の復活を計り永  
 ろしきことに在り、幾分の  
 來の面目樹立完成せるもの  
 内容の欠損補填に頭取以下  
 と言ふべし、是等は獨り小

本産協議會を開催する。  
 協議會より提出する案件は  
 左の如きものである。  
 一、漁業労働立法並に漁業  
 災害救済法制定に關する  
 二、郡漁業現況と対策方法  
 三、機船底曳網漁業取締に  
 關する件。  
 四、水産會賦課金改正の件  
 以上  
 尚ほ協議すべき問題は十五  
 日迄に各漁業組合より提出  
 することとなる。  
 一、  
 協同會提出事項は目下勞  
 働問題失業救済並に農村開  
 題の噴しき折柄慎重なる態  
 度にて協議さるゝものと観  
 測する。

に町村長會を開き魚沼の間將株  
 所謂民政系の統帥派にパスできる人だ、氏位  
 題たる農村救済策を議題と株だ、然し此れも餘りに出  
 して協議をなし、郡出身代  
 議士、全國町村長會長並に  
 全國農會議長宛に激勵の電  
 報を發した。  
 小濱長太郎氏  
 小濱長太郎氏  
 養きにも言ふた事がある  
 今日立場は既に業成り  
 道程を踏んだのだと観測す  
 るが公平なる見方であらう  
 然らば今後の小濱氏は、如  
 何なる方向に進むべきか、  
 記者は辛直に言ふ、潤徳、  
 其れだ、今や大小濱の消  
 滅は、縣會議員に立した

て今は銀行業の使命は三四助けるの大推量と四倉町の  
 年と大分變つて、四倉爲めに考ふる時、それから  
 銀行は比較的無難の方だ今此の社界と言ふものがどん  
 として又町としても預金者  
 と四倉銀行更生復活を『モ  
 濟眼と政治上の識見を供へ  
 小湊平治郎氏を評する  
 君が何時か愛色を顔に表は  
 中々よい利息はりになる。  
 かさね所にて現内閣の重点  
 があつたか、君は先代の養  
 八十五株あるが最初二十株  
 然して木村前代議士の四倉  
 年にやられた中間然し所を  
 遺すと云ふことがざれば  
 助精神に欠如したる結果の  
 む、こゝに債權支拂に關し  
 言ふ所に幾分の共鳴あらむ  
 郎氏と呼び直其のもので  
 られたのと、配當で買足し  
 せられてる政治的にも一變  
 が僅かに一奮發して犠牲奉  
 られる。  
 金融なども中々手廣くやつ  
 居られる。  
 五千圓位に評價せられる時  
 人四倉町會議員として町治  
 吉田町取は梅子のにぎりめ  
 である、概して一家の事業  
 重ねて言ふ三四年此方銀行  
 營業に余程進んで其の一定  
 其存立を助長すること、せ  
 は)本紙深く見る所あり他  
 三郎氏を除いては小湊氏だ  
 電燈の日本の主都に電力以  
 て四倉銀行の樹立はしにれ  
 も立派のものに佐藤三三  
 人願として其の共榮のた  
 らるる形勢あるに付既に  
 港内形に金融機關の完備に  
 東京住所報せられたし一度  
 は自分の考案は人手に托す  
 が十六圓とは何事かと論じ  
 らむ、云ふを止めよ銀行業  
 しても本文の主役小湊氏に  
 て四倉銀行の復活を計り永  
 ろしきことに在り、幾分の  
 來の面目樹立完成せるもの  
 内容の欠損補填に頭取以下  
 と言ふべし、是等は獨り小

### 本年梅雨

約廿二日間位で夏至の後  
凡十日にして七月一日若  
くは二日に當る半夏生と言  
ふ日を以て梅雨明けとして  
居る。

暦面上の入梅は本年は六  
月十一日であるが天候が梅  
雨現象を呈したのは此の入  
梅に先きたつ事六日で平年  
より早い方であつた。

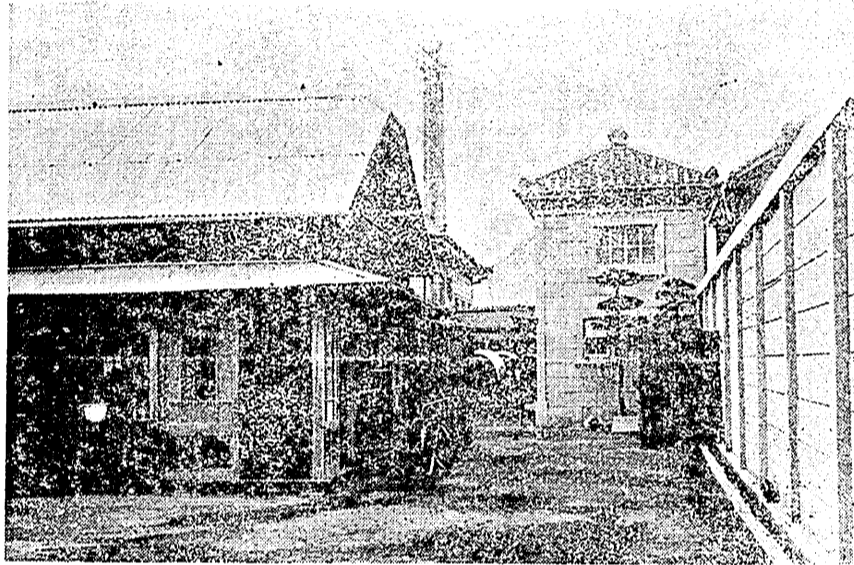
其れで此の暦面上の入梅と  
梅雨現象とに就ては一般の  
方々の中には未だ随分誤解し  
て居る様子だから此際  
に叙述して置くのも無駄でな  
いと思ふ。

梅雨と言ふ現象は氣象學に  
關する事で氣壓の配置が北  
海道方面に高く南海岸が低  
い場合此の微候を現すもの  
であるから入梅と言ふのも  
此の氣壓配置が初めて現れ  
た時を言ふのが適當と思ふ  
のである。

而るに暦面では實際現象の  
有無に係らず天文學上から  
算出するものであるから茲  
に當然相異が現れて來る  
もので別に算出方法が悪い  
理由でもない太陽の位置が  
黄道上夏至點の前十度即ち  
黄經八十度の處に來た時を  
入梅と定めるのは是を判り  
易く言へば夏至の十日或は  
十一日前に當つて居るもの  
で毎年六月十日或は十一日  
である。

其れであるから暦面上の入  
梅は確定的のものであつて  
實際の現象が早く梅雨に入  
るが遅かろうが又空梅雨に  
終らうが不思議はない次に  
梅雨の期間であるが是れ  
も暦面では決定してあつて

昭和活版所  
平町南町



カフエーキラク

自信アル御料理  
美人のサービス

小名濱町中通り  
電話四七番

清泉水屋本店 電話六六番 小名濱町中通り

内科、外科、小兒科  
花柳病科

佐瀬醫院

新瀨醫學士 佐瀬恒夫  
小名濱町中島  
電話一三五番

眼科一般診療

明雲堂眼科醫院

東北醫學士 日ノ澤孝三  
泉驛前

上田外科醫院

平町南町  
電話二二九番

外科専門  
レントゲン科

中村醫院

病室の設備 入院應需  
内科、外科、花柳病科  
小兒科  
小名濱町  
電話一八番

値は安く  
品は良く  
丈夫な  
タマキ洋品店へ

小名濱町城座入口

磐城水産工業株式會社

社長 小野 晋平  
支配人 福尾 伊太郎  
電話六六番

木田齒科醫院

齒科一般口腔外科  
小名濱町  
電話一〇五番

祝 甦 生

縣水産試験場

(順不同)

鈴木 佳年  
青木 貞藏  
木村 貞郎  
佐藤 貞藏  
小林 榮彦

無電  
磐城丸  
船長 岩谷 義光  
機長 渡邊 鶴治

内務省修築事務所

(順不同)

前園 千代治  
齋藤 祐之助  
高橋 寛  
富塚 梅吉  
佐々木 豊治  
小山 八十雄

水野技藝女學校長

水野 ヒロ

小名濱藝妓屋組合

尾城 寫眞館

小名濱町中島  
電話一〇四番